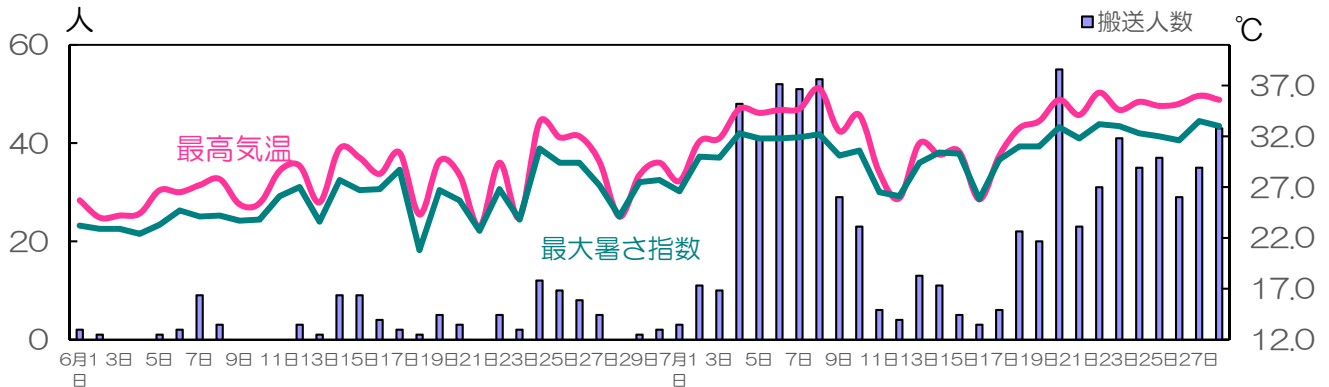


熱中症情報

<搬送数>

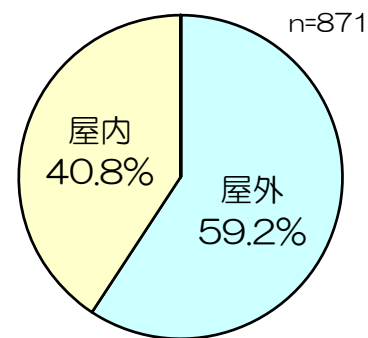
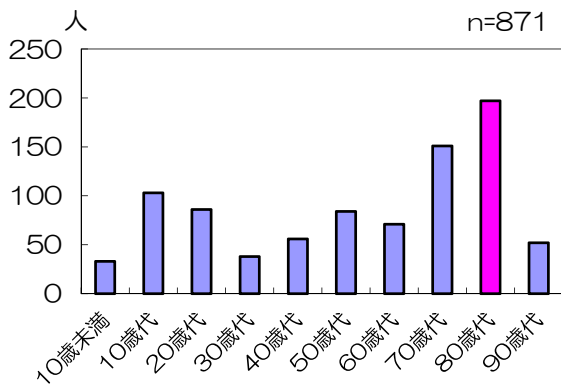
令和6年4月29日～7月28日までの搬送数（消防局データを使用）は、計871人（4月0人、5月31人、6月100人、7月740人）でした。7月4～8日は、最高気温34.3℃以上、暑さ指数31.8℃以上で、搬送数が連日40人以上/日と急増しました。7月20日は、最高気温35.6℃、暑さ指数32.9℃、搬送数が54人と、期間内で最多を記録しました。その後も猛暑日は続き（暑さ指数は31.0℃以上）、搬送数は多い状況です。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。特に、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

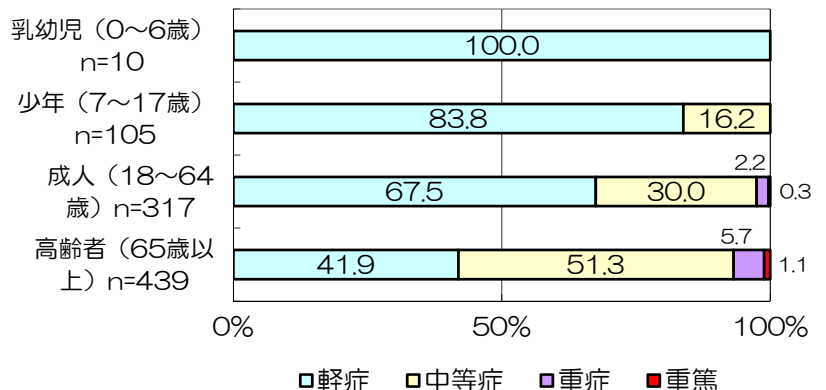
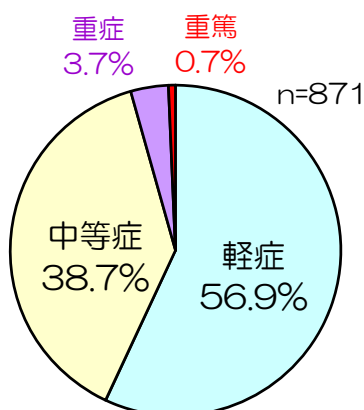


暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別> 80歳代が197人（22.6%）で最も多く、**<発生場所>** 屋外59.2%、屋内40.8%で、次が70歳代で151人（17.3%）でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度*> 軽症56.9%、中等症38.7%、重症3.7%、重篤0.7%でした。高齢者で中等症以上の割合が58.1%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。